

令和6年度 大阪市立 梅香中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和6年度 大阪市立 梅香中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
実施月日			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	200	53	47	3.9	14.0
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
実施月日			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	204	61.3	48.5	44.8	45.9	48.9	5.6	4.0	16.4	5.1	8.3
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9
2 年	学校	176	63.3	49.4	49.2	39.5	51.5	8.6	4.8	8.8	7.2	6.4
	大阪市	—	66.1	49.9	51.4	47.0	54.6	8.4	4.6	8.2	5.7	7.0
	大阪府	—	65.5	49.5	50.7	45.9	54.0	9.3	5.2	9.5	6.6	7.9
1 年	学校	163	57.2	50.5	48.7	50.1	61.3	7.4	5.5	6.5	4.3	4.1
	大阪市	—	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	3.8	4.9
	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.8	—	5.8

- ※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施
 ※ 1年生の理科は物理的領域を選択
 ※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はA問題を選択
 ※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】 (スコア)	聞くこと 【リスニング】 (スコア)	書くこと 【ライティング】 (スコア)	話すこと 【スピーキング】 (スコア)
実施月日						
3 年	学校	194	101.4	100.1	129.0	82.0
10月	大阪市	—	105.7	104.6	149.6	102.1

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトル ラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
	190										
2 年 男 子	学校	25.32	25.46	42.30	47.78	77.39		8.20	196.96	17.39	38.90
	大阪市	28.38	26.42	42.74	51.50	79.76		8.08	194.64	19.84	41.10
	全 国	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98		7.99	197.18	20.57	41.86
2 年 女 子	学校	20.85	20.15	42.06	39.14	51.57		9.14	165.61	10.96	41.97
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	52.98		9.01	167.01	12.04	47.51
	全 国	23.18	21.56	46.47	45.65	50.67		8.96	166.32	12.40	47.37

令和6年度 大阪府立 梅香中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞

平均正答率が全国と比較して5.1％、市と比較して3％下回っている。

平均無回答率が全国と比較して0％、市と比較して0.2％上回っている。

学習指導要領の内容 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと においては、全国と比較して僅かなマイナスとなり努力がみられる。また、文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題において、全国と比較して上回る結果が得られた。平均無回答率からも、問題を読み解き理解する力があると思われる。

＜数学＞

平均正答率が全国と比較して5.5％、市と比較して4％下回っている。

平均無回答率が全国と比較して2.7％、市と比較して1.5％下回っている。

回転移動について理解しているかどうかをみる 問題においては、全国と比較して上回る結果が得られた。

【今後に向けて】

＜国語＞

授業規律を確保しつつ、生徒の学力向上に向けた授業改善に向けた取組として、作品の内容や構成、表現上の特色を踏まえ、自分の考えを書くことができる力をつけさせる。自分の考えが相手に効果的に伝わるように書くために、根拠を示して説得力をもたせ、筋道立てて書く方法や、本文を引用するなどして、根拠を客観的に述べる方法等の指導に注力する。

＜数学＞

数学的活動の一層の充実を図るために、日常の事象や社会の事象から問題を見いだし解決する活動、数学の事象から問題を見いだし解決する活動、数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動の指導に力を入れる。また、「主体的・対話的で深い学び」の授業展開において、生徒の「問い」を重視し、その問いを学級全体で解決し、さらに新たな問いに向かう、ような学ぶ生徒の姿をつくる。

○中学生チャレンジテスト結果

【成果と課題】

＜国語＞

3年 前年度(本校平均60.0/府平均62.1差-2.1p)と今年度(本校平均61.3/府平均65.2差-3.9p)

成果としては、「書くこと」の領域において、大阪市平均より、－0.3点であった。昨年とデータと比較すると差がなくなってきた。

2年 前年度(本校平均64.6/府平均66.8差-2.2p)と今年度(本校平均63.3/府平均65.5差-2.2p)

知識及び技能の2つの事項において府平均よりも高い数値を出している。

思考・判断・表現の項目が全体的に平均を下回っている。

1年 前年度(本校平均59.3/府平均60.8差-1.5p)と今年度(本校平均57.2/府平均58.5差-1.3p)

言語事項に対する正答率が府平均を上回っている結果であったが、無答率は府平均よりも低い状況である。日々の漢字テストに対する取り組みが成果として見られているようである。また、意欲的に取り組む姿勢が無答率の低下につながっている。

＜社会＞

3年 前年度(本校平均50.9/府平均54.7差-3.8p)と今年度(本校平均48.5/府平均50.4差-1.9p)

平素より学年全体で100問の短答プリントを積極的に取り組んでいることから短答式において府の平均をしっかりと超えることができた。しかし、選択式においては府平均に到達できず、全体の平均が下がり府平均を超えることができなかった。とくに歴史的分野の江戸時代や地理分野の世界の気候における選択形式のミスが目立つ。

2年 前年度(本校平均57.6/府平均53.4差+4.2p)と今年度(本校平均49.4/府平均49.5差-0.1p)

中間層～上位層が大阪府の分布に対して得点することができている。中間層以下が大阪府の分布に対して低得点であった。

歴史的分野が府平均に対して1.5ポイント低い、観点別は府平均であった。

授業で各分野をしっかりと取り組み、自由課題としてドリル問題にも取り組んだ結果、中間層以上の生徒が対府比より得点をすることができた。

1年 前年度(本校平均52.7/市平均56.0差-3.3p)と今年度(本校平均50.5/市平均53.7差-3.2p)

記述問題が平均値より+6.7ポイント上回っている。思考・判断・表現の観点の平均値とほぼ同じ。

基礎問題が平均値より－4.2ポイント下回っている。地理分野のみでは－4.8ポイント下回っている。特に短答(語句を答える)の正答率が低い。

＜数学＞

3年 前年度(本校平均46.0/府平均52.2差-6.2p)と今年度(本校平均44.8/府平均49.1差-4.3p)

大阪府と比較し、中位層から下位層の割合が多く、各設問においても同じ傾向がみられる。数と式の簡単な計算問題でも大阪府の平均を下回っており、計算力の向上が課題である。

2年 前年度(本校平均48.2/府平均52.2差-4.0p)と今年度(本校平均49.2/府平均50.7差-1.5p)

各単元項目において大阪府平均と大差ない結果であったが、情報が多くなる問題での失点が目立った。また、定期テストと今回のテストで点数の差が大きく開いた生徒が多い。

成果としては、－1.5ポイント下回っているが例年の梅香中学校の平均値としては良好な結果だった。

1年 前年度(本校平均52.7/府平均54.7差-2.0p)と今年度(本校平均48.7/府平均49.8差-1.1p)

大阪府平均から－1.1ポイント下回る結果となった。特に「関数」の領域において課題がみられる。比例反比例の比例定数を求める問題では半数が不正解であった。基本的な計算問題での正答率は大阪府を上回っていた。

令和6年度 大阪府立 梅香中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

〈理科〉

3年 前年度(本校平均42.8/府平均47.6差-4.8p)と今年度(本校平均45.9/府平均52.3差-6.4p)
無回答率について記号問題等は問いによっては、本校が大阪府を上回っており何とか回答しようとする姿勢は見られた。しかし、記述問題についてはその限りではなかった。正答率を大阪府と比較すると、ほとんどの問いで下回っていた。確かな知識の定着と論理的思考力の育成が課題であると考えられる。

2年 前年度(本校平均36.2/府平均40.2差-4.0p)と今年度(本校平均39.5/府平均45.9差-6.4p)
粒子の分野において府平均に近い数値を出している。すべての項目において平均を下回る結果となった。

1年 前年度(本校平均56.8/市平均62.2差-5.4p)と今年度(本校平均50.1/市平均55.6差-5.5p)
カテゴリ別正答率から、解答形式での記述問題の正答率が大阪市と比べて低かった。図やグラフを読み取り、自分の言葉で書くことが苦手だと考えられる。

〈英語〉

3年 前年度(本校平均45.6/府平均54.2差-8.6p)と今年度(本校平均48.9/府平均53.6差-4.7p)
領域別では、「聞くこと」が大阪市平均に少し近づいたが、「書くこと」「読むこと」に課題が残る。評価の観点からみても、「思考・判断・表現」は一定程度あるものの、「知識・技能」の力の定着に課題がある。

2年 前年度(本校平均52.9/府平均57.1差-4.2p)と今年度(本校平均51.5/府平均54.0差-2.5p)
領域別にみると、昨年度と比べて「読むこと」「書くこと」の分野が大阪市の平均に近づいたが、「読むこと」の分野に課題が残る。また、「思考・判断・表現」の定着も大阪市の平均と比べて課題としてあげられる。

1年 前年度(本校平均55.1/市平均64.1差-9.0p)と今年度(本校平均61.3/市平均61.5差-0.2p)
「読む」「書く」では大阪府平均とほぼ同様の結果であったが、「聞く」については大阪府平均より0.4上回っている。授業内で重点的にリスニング活動を行った結果であると考えられる。「聞く」ことにより英単語が定着しているため、短答式の問題は大阪府平均を上回っている。

《今後に向けて》

〈国語〉

日々の学習で短い作文を書くようにしてきたことで、少しずつ書くことの意識が変化していると感じる。古文に関しては、定期的に問題を解くような時間を設けるようにしていく。
記述を解く練習をする。わからなくても考え続ける努力ができるよう指導する。
古典の単語などの確認を行う。
読解力に関しては一朝一夕に成果の成るものではないため、チャレンジテストに限らず日常の授業の中で力をはぐくんでいく必要がある。

〈社会〉

歴史上の人物の政策の復習と馴染みにくい世界地理の漠然とした理解と雨温図の見方の徹底により全体の学力向上と得点力アップにつなげたい。
今後は中間層以下の底上げをするため、過去問に取り組むのはもちろん、ドリル課題を行い、知識を問う問題で得点できるようにする
重要語句を覚えるために小テストの回数を増やす。授業で重要語句をより一層強調する。

〈数学〉

1・2年時の基礎的な学習内容の定着が不十分であるため、毎回の授業で必ず復習の時間を5分でも取る必要がある。また、3年生の範囲でも既習の部分を変えながら伝えていく。
試験範囲が広がると点数が大きく落ちる生徒がいるので基本的な演習を十分にすることがある。
「関数」の領域で課題がみられるため、2年生で学習する1次関数、3年生で学習する2次関数にむけて、比例反比例の復習をする必要がある。式の違いや求め方の基本的な内容から1年生の残りの授業でもう一度演習する時間をとる必要がある。

〈理科〉

確かな知識の定着については、簡単な一問一答形式のものや、計算問題をまとめたプリントや問題集を積極的に取り組み、授業内では重要単語を明確に提示するなど、生徒が分かりやすく、取り組みやすい課題を設定するべきであると考えられる。論理的思考力の育成については、生徒の身近な現象やもの、ことを論理的に説明できるように課題を設定し、また実験では考察部分を文章表記で取り組みなど、自分の考えをまとめ表現する活動を積極的に行っていくべきであると考えられる。
単語テストなどを行い重要単語の定着を図る。また、文章問題に対応できるよう授業内で演習を積極的に行う。
記述力を上げるために、実験での結果を自分で考察したり、図やグラフ、資料を読み取り文章で説明する取り組みを授業で行っていく。

〈英語〉

既習事項を反復し、「書くこと」、「読むこと」につなげる活動を取り入れる。選択式問題では根拠をもって選択できるよう授業内で取り組んでいく。
「読むこと」の育成につなげるような長文の読解を積極的に授業に取り入れ、英語の文章に慣れることができる環境を作る。その際、単なる知識問題ではなく思考力を高める問題を多数用意する。
長文読解やまとまった内容のある英文が書けるように指導していく。

○大阪市英語力調査(GTEC)

〈結果〉

CEFR A1レベル以上の英語力を有する中学3年生の割合が48.7%で昨年度より13.2% 上回った。

《今後に向けて》

授業中にペアワークやグループ学習を行い、コミュニケーション能力を高めながら、言語活動を中心とした授業展開を実施していく。またC-NETの活用も積極的に行っていく。

○全国体力・運動能力運動習慣等調査

〈結果〉

令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合が男子が-2.96ポイント、女子は-5.4ポイント下回った。

《今後に向けて》

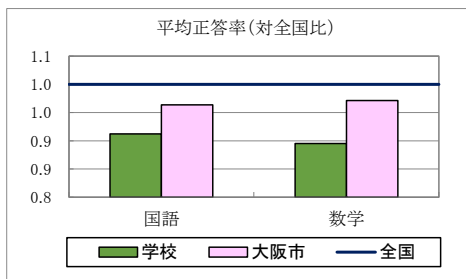
各単元ごとに1回以上はペアワークやグループワークを導入し、生徒同士の学習に対する主体性を高めることで、互いが切磋琢磨しながら技能の習得し、定着できるように授業を展開することができた。今後も更にペアワークやグループワークの行い方について工夫していきたい。

令和6年度 大阪市立 梅香中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

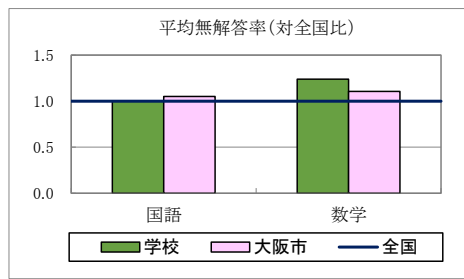
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	53	47
大阪市	56	51
全国	58.1	52.5

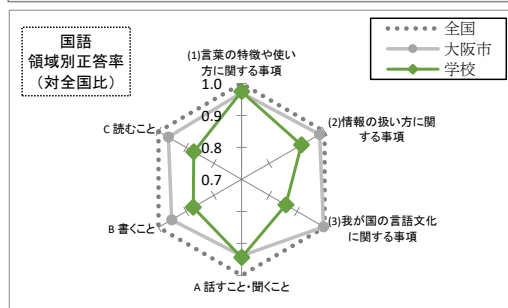
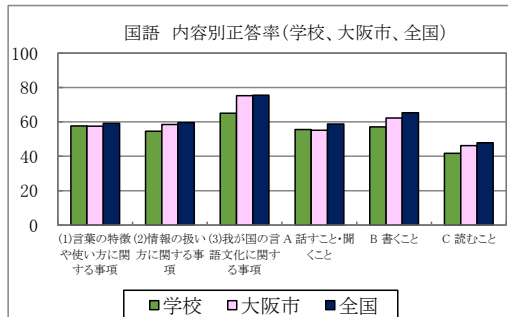


	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	3.9	14.0
大阪市	4.1	12.5
全国	3.9	11.3



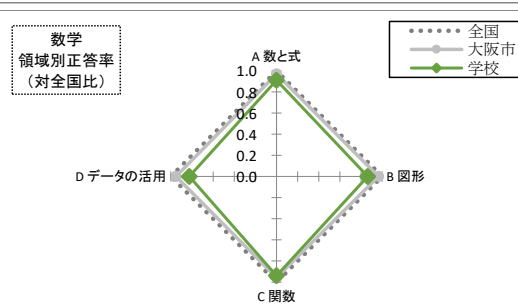
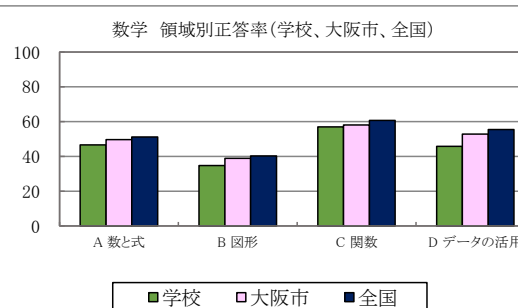
【 国 語 】

学習指導要領の 内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	3	57.7	57.5	59.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	54.6	58.5	59.6
(3)我が国の言語文化 に関する事項	1	65.0	75.3	75.6
A 話すこと・聞くこと	3	55.5	55.2	58.8
B 書くこと	2	57.1	62.2	65.3
C 読むこと	4	41.8	46.2	47.9



【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	46.6	49.6	51.1
B 図形	3	34.8	38.9	40.3
C 関数	4	57.0	58.1	60.7
D データの活用	4	45.8	52.8	55.5



令和6年度 大阪市立 梅香中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

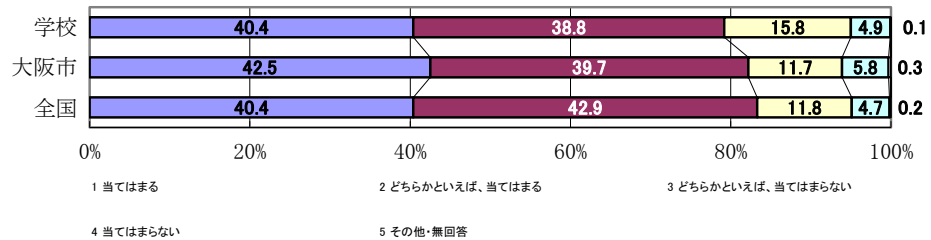
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

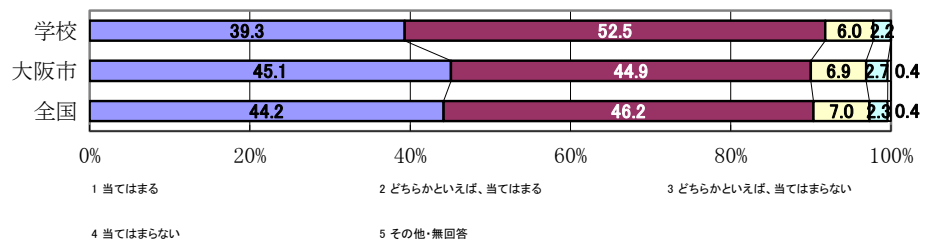
9

自分には、よいところがあると思いますか



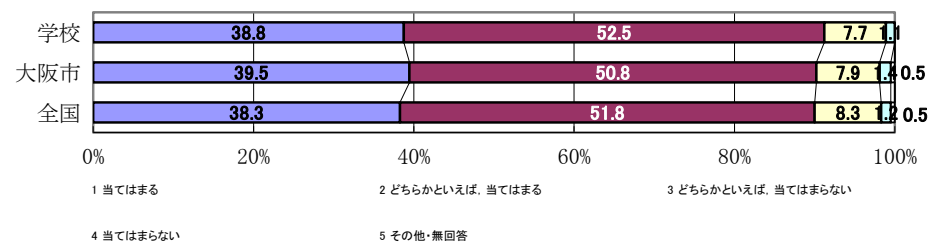
10

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



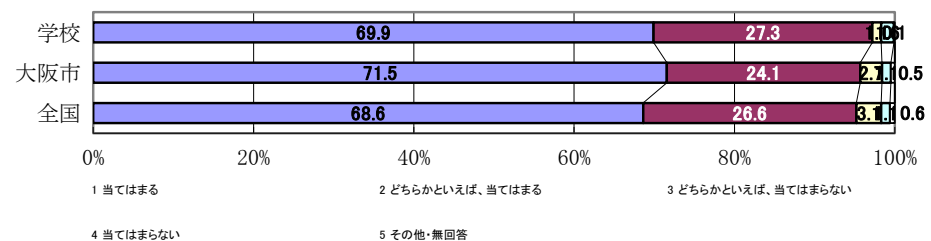
12

人が困っているときは、進んで助けたいですか



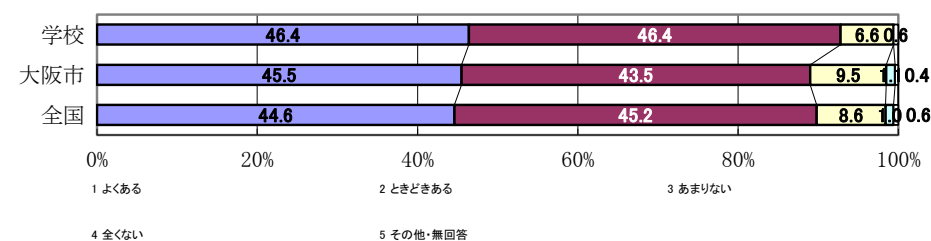
15

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



19

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



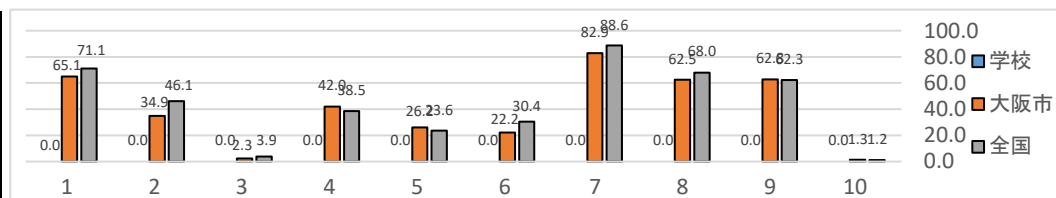
令和6年度 大阪市立 梅香中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問より（26）

質問番号
質問事項

26

放課後や週末に何を
して過ごすことが多
いですか(複数選択)



1 学校の部活動に参加している

2 家で勉強や読書をしている

地域の活動に参加している(地域学
校協働本部や地域住民などによる
学習・体験プログラムを含む)

4 学習塾など学校や家以外の場所で
勉強している

5 習い事(スポーツに関する習い事を
除く)をしている

6 スポーツ(スポーツに関する習い事
を含む)をしている

7 家でテレビや動画を見たり、ゲーム
をしたり、SNSを利用したりしている

8 家族と過ごしている

9 友達と遊んでいる

10 1～9に当てはまるものがない